

令和7年度 第2回白井市市民活動推進委員会（審査会）会議録

1. 開催日時 令和7年5月23日（金）午後1時30分～午後3時45分
2. 開催場所 白井市役所東庁舎3階 会議室302、303
3. 出席者 関口宏聡委員、出川真也委員、赤間賢二委員、大田茂子委員、
富澤賢司委員、木下新治委員（名簿順）
渡辺しろい市民まちづくりサポートセンター長（参考人）
4. 欠席者 篠原美保委員
5. 事務局 今井市民環境経済部長、元田市民活動支援課長、石田主査、
栗原主任保健師、伊東主事
6. 傍聴者 なし
7. 議事
 - （1）補助金審査の流れについて[非公開]
 - （2）プレゼンテーション[公開]
 - （3）補助金審査[非公開]
8. 会議概要

（1）補助金審査の流れについて（資料1、2）

（事務局説明）

○委員長

ありがとうございました。何かご質問等ありますか。

（質疑なし）

○委員長

よろしいでしょうか。

本日は先週行いました会議とは違い、団体によるプレゼンテーションを聞いた後に最終審査ということで、点数を付けて各団体の採否を決めることとなりますのでよろしくお願いいたします。

また、最終的な審査の際に、審査用紙に皆さんの思う点数と、特記事項を記入していただきますが、特記事項については昨年同様、採択の結果を通知する際に団体にフィードバックするということで、この点が良かったよとか、あるいはこの点を注意してくださいとか、こういう事業はどうですかみたいな提案も含めて、皆さんから何かコメントがあれば書いていただくということになります。

採択のラインとしては、促進型が5割、発展型が6割というのと、予算の範囲内とい

うことがあります。予算に関して言えば、今回は応募団体の補助申請額を合計しても予算を超える見込みではなく、競争性がないと言えるので、合計平均点数が何割かが主な論点かというふうに思います。大丈夫ですかね。

それでは少し早いですが、早速プレゼンテーションに移りたいと思います。

(2) プレゼンテーション（団体配布資料）

○事務局

それでは、令和7年度白井市市民団体活動支援補助金に係るプレゼンテーションを開始いたします。

まず、1団体目の発表については、ひだまり食堂さんの子ども食堂についてご発表いただきます。発表者は●●さんです。

発表前にプレゼンテーションの進め方についてお知らせいたします。

（事務局説明）

○事務局

ご質問等ございますか。

それでは発表をお願いいたします。

○ひだまり食堂

ひだまり食堂の●●と申します。本日はよろしくお願いいたします。

ひだまり食堂は、関わる全ての人が心豊かになれる場所づくりを目指して運営しております。

ひだまり食堂とはどんな場所ということで、ひだまり食堂は、私と妻の夫婦で運営している白井市の子ども食堂です。スタッフは、私たちを除いて、現在10名ほどおります。

ひだまり食堂の3つの狙いということで、1つ目が、地域の人たちとつながり、望まない孤立を減らす。2つ目は、子育て中の親がほっと一息つける場を提供する。それから子育て応援をします。3つ目が、多世代交流によるにぎわいづくり。

私には子供が2人おり、子育てしながら大変じゃないかとよく言われるのですが、むしろ、子育て中である私たちがやるからこそ、意義がある活動だと思っています。

ひだまり食堂が大事にしていることは3つあります。

1つ目が、地域の人たちの望まない孤立を減らしたいということです。例えば、学校に行きたくないけど、楽しくおしゃべりがしたいという小さな子供や、友達をつくりたいけど、どこでつくればいだろうと悩んでいる子供、学校や家以外に居場所が欲しい学生さん、年が近いママ友、パパ友が欲しいというママさん、パパさん。こういった望まない孤立を減らしたいと考えております。

2つ目が、子育て中の親がほっと一息つける場所を提供することで、スタッフも子供を連れて参加オーケーとしていることです。子供の見守り役を常時2名から3名、毎回配置しているため、各回スタッフは合計10人程度で運営しております。

大体毎回、30食程度作る予定なのですが、その提供食数にしては多いほうだと思います。これは、先日開催した分なのですが、写真に写っているプレイマットとおもちゃは、助産院の院長先生がお貸ししてくれました。

大事にしたいことの3つ目が、スタッフの自己効力感の向上と生きがいづくりです。Y君のケースというのを紹介させていただきたいと思います。

Y君というのは、私の友人の弟でして、小さい頃から知っているので、私の幼なじみみたいな関係です。実は、子供の頃から心臓の病気を持っていて、今は20代後半なのですが、最近になってドナーが見つかり、ようやく手術を行ったため、まだ就労経験がありません。なので、社会に出たことはありません。社会で働きたいけれども自信がまだなく、不安そうにしていたので、ひだまり食堂のスタッフとして参加してはどうかと声をかけたところ、協力していただくことになりまして、スタッフ一同でY君が社会に出るためのサポートをしている状況です。

今後の課題ですが、ひだまり食堂をより多くの人たちに知ってもらうことが1つ目の課題です。スタッフはたくさんいるのですが、まだ白井市の中で認知度がほとんどない状態なので、広報活動や啓発活動をして、どんどん多くの人たちに知ってもらえるように努力したいと思います。

2つ目が、来てくれた方に、来てよかった、また来たいと思ってもらえるような居心地の良さを追求することです。来てよかった、また来たいと思ってくれたら、次回も参加していただけるだけではなくて、毎日の生活とかがもっと楽しいものになると考えていますので、居心地の良さを追求したいと考えています。

3つ目が、最重要課題だと思うのですが、支援の輪を広げることです。食材等の寄附をしていただける農家さんや企業さんを探すことで、ひだまり食堂の持続可能な運営を目指したいと考えています。

以上です。ありがとうございました。

○委員長

ありがとうございました。それでは、今、ここから質疑に移りたいと思います。いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

とてもいい事業だと私は思います。もう既に西白井コミュニティプラザ（以下、「コミプラ」）で開催されているということなのですが、大体、何曜日にされているのでしょうか。

○ひだまり食堂

今、決めているのは、毎月最終日曜日に定期開催したいと考えています。

○●●委員

ありがとうございます。

10名様のお仲間がいらっしゃるということですが、お母様が多いのでしょうか、お父様も一緒に参加されるのでしょうか。

○ひだまり食堂

スタッフは、8割が女性で、2割が男性という構成です。

○●●委員

分かりました。ありがとうございます。

○委員長

ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

お子さんのいるスタッフさんがいらっしゃるということで、見守る場所というのは、コミプラさんの児童ルームなどをお使いになられるのでしょうか。

○ひだまり食堂

見守り場所は、0歳児が、私の子ともう1人いるのですけれども、0歳児用に調理室の一角にプレイマットを敷いて、そこで2、3名で見るという形と、あとは3歳児が2人いるので、机の上でお絵かきとか、そういうふうにならして対応しました。子ども室を借りることは、今のところはしていません。

○●●委員

ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○●●委員

既に試運転というか、実験的にされているというふうに聞いておりますが、子どもさんとか、いろいろなメンバーと一緒にやっていくという中で、ヒヤリハットみたいなことというのは、あったのかどうかと、それに対して、もしくは想定されるリスクに対して、何か考えていることがあれば教えていただければと思います。

○ひだまり食堂

前回実践したときは、特にヒヤリハットとかトラブルとかもなく終えられたのですが、調理に意外と時間がかかるなというのは1点ありました。大体、提供する30分前に終えたかったのですが、提供のぎりぎりぐらだったんで、そこは少し改善したほうがいいかなと思いました。

想定されるリスクとしては、やはり食中毒などが怖いので、そこはスタッフに手洗い、消毒とか、まな板の使い分けとかは徹底させています。

○●●委員

分かりました。ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

では、私からよろしいでしょうか。白井市民ではないので、少し的外れな質問かもしれませんが、構成員の皆さんはけやき台というところに事務所があるようですが、子ども食堂の会場となるところは、そこと割と近いのでしょうか。

○ひだまり食堂

住んでいるところは皆さん、白井市の中で結構ばらばらなのですが、車で来られるぐらいの距離に皆さん住んでいらっしゃいます。自転車で来ている方もいますが、基本的には、7、8割ぐらいは車で会場まで来ています。

○委員長

結構、車で来られるんですね。

○ひだまり食堂

はい。

○委員長

白井市も、子ども食堂は何か所かでやられていると思いますが、まんぷく食堂さんとかもですが、先ほど●●委員の質問にあったとおり、皆さんが今やられているところというのは、位置関係的にはどうなのでしょう。

○ひだまり食堂

位置関係はかなりばらけていると思います。西白井コミュニティプラザで、ひだまり食堂みたいな子ども食堂を運営されているところは、私の知る限りないです。まんぷく食堂さんは、どちらかというとフードバンクなので、被ってはいないと思います。

○委員長

それはすごく良いことだと思います。市民活動なので、活動範囲が重なっていたとしても全然良いのですが、できることなら、満遍なく各地域にそういう団体ができると、より望ましいと思いましたので。ありがとうございます。

ほか、いかがですか。

どうぞ。

○●●委員

私も子ども食堂をセンターでよくやっていいますが、来てくれる子供たちとか、対象が決まってしまうのです。その辺がどういう扱いをするのかなと思いました。

○ひだまり食堂

いろいろな方に来てほしいというのがあって、それは集客方法で工夫しようかなと考えています。

例えば、聞いた話だと、公式LINEとかで集客している方もいるそうなのですが、そうすると、決まった人しか来なくなってしまうこともあるので、なるべくは都度、いろいろな人が来てくれるように、チラシを配置して、工夫はしたいなと思っています。

○委員長

ありがとうございます。

あと1問は質問できますが、よろしいですか、皆さん。

そうしましたら、何か最後に言いたいこととかあれば団体さんどうぞ。

○ひだまり食堂

まだまだこれからの団体なのですが、頑張っていくますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員長

では、お時間になりましたので、これにて、ひだまり食堂さんは終了とさせていただきます。お忙しいところ、本当にどうもありがとうございました。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

私たちは「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会です。

私たちは、白井で運転免許を返納できますかということを合言葉に、白井の公共交通問題を考えてまいりました。高齢者が車を運転して事故を起こすというようなことが頻繁に日本中で起きており、白井でも死亡事故とかも起きています。白井の公共交通というのが非常に少なく、免許を返納しようとしてもできないという、そういうような環境にあります。

そういった状況のなかで、私たちとしましては、子供からお年寄りまで誰もが住みやすいまちづくりのため、公共交通の利便性の向上ということを求めまして、今後の新しいモビリティについて、調査、勉強会をやってまいりました。

事前にお渡ししている団体の概要書にも、この内容を書いてあります。

別紙についても配られているようですが、別紙の1ページ目のところに、新しい公共交通のモビリティというのが、①と②で出ていると思うのです。こんな感じで、全国でいろいろな形のモビリティが運用されています。

これを基に、白井市が実施したモビリティの導入を行政に提言すると同時に、市民への啓発活動ということでいろいろ広げていくのが、私たちの会の活動です。

この市民への啓発活動として、今、グリーンスローモビリティ（以下、「グリスロ」）を使ったモビリティの実証実験や、関連した講演会と、あと、実証実験に関わるアンケート調査、実証実験のPR等をやっていこうと思っております。それが今回の対象の事

業になります。

この中で講演会というのが、別紙2の一番最後に記載している、バス事業の問題について精通している大学教授をお招きして、新しいモビリティを使った白井の未来について、市民の方にお話をしていただこうと考えております。

これらの費用は、収支予算計画書にあらかじめ示しているのですけれども、収入のうち、資金源のほとんどは寄附ということで、つまり、私たちが出資しているところです。それでも新しいモビリティを使った未来の白井市の交通に希望を持っていただければ幸いですと考えております。

事前に、グリスロと実証実験について御質問を頂いていますので、それについて回答させていただきます。

グリスロの試乗会は実施する予定ですかという話ですが、実証実験では、多くの人にグリスロを知っていただきたいと考えています。車両レンタルの期間も1か月というふうに考えているので、予定している試乗会とは別に試乗会を事前に行うということは一切考えていません。

業者を募集してやるのか、行政がやるのかという話ですけれども、今のところ行政に依頼してやっていくという形で、調整しています。

もう一つ、公道を走行するときの安全性。グリスロは時速20キロで走るのですけれども、車両後部にこういったパネルを設置してということで。

○委員長

すみません。時間になってしまったので、言い足りなかった部分については質疑の中でぜひ補足していただければと思いますので、一旦質疑に移らせていただきます。

それでは、委員の皆さん、いかがでしょうか。

○●●委員

非常に興味深いなと思って、最初から見ていました。実証運行のルート案を別紙で3つほど出しておられますが、これは実際にいつ頃、実施をする予定なのかというのを聞きたいなと思いました。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

いつ頃やるかという話なのですけれども、今、計画しているのは、今年の11月ぐらいをめどに予定して考えています。

ただ、このルートについても、いろいろと課題が多くて、道路の状態とか、確認すべきことがあるので、今、都市計画課さんと話を一緒にしております。だから、ルートがもうちょっと縮小されるかもしれないし、また別になるかもしれないし、まだ確定はしていません。

○●●委員

分かりました。1か月ぐらいやる予定でしょうか。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

そうですね。

○●●委員

1 か月ぐらいやられて、できれば複数のルートを実験して、実証していききたいということでしょうか。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

そうですね。ルートを試してみたいと思っております。

○●●委員

分かりました。乗ってみたいと思います。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

本当に計画書どおりできれば素晴らしいなと思いながら聞いておりました。ただ、やり方、手法だと思いますが、実際に手を挙げてくれるところがあるかということが一番問題だと思います。

車を買うのであればいろいろな費用がかかるけれども、本当に困っている人がたくさんいることは間違いありません。

もう一つ、20キロというふうになってしまうと、走る場所は限られると思いますが、それも含めて、どのように考えているのかなと思いました。

以上です。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

実証実験は車両を購入というよりは借りるというような、そういう費用もかかるということです。今回のこの対象事業は、実証実験そのものではないのです。あくまでも市民への啓発活動ということです。

実証実験については、これは別途、対応しています。ただ、メーカーさんとも調整しているので、どれくらいかかるかというのは正直目途が立っていません。時期的にもどうなのだというのもある意味あります。ここの中にも書いていますが、シートベルトは、20キロなので不要だけれども、でも、安全性を高めるためにつけてみましようとか、ほかにいろいろ改造していききたいなという話は、今メーカーさんのほうでしていたところですよ。

○●●委員

ありがとうございます。

○委員長

大丈夫ですか。

あと、もし今回、実証実験と、あと、今回のこの補助金事業で啓発的なものを行ったとして、皆さんが考える実施主体というか、七次台でやる場合、想定しているのは、市が直営でやるみたいな話なのか、ささえあい交通とかボランティア輸送みたいな形でやるのかとか、そのイメージが現時点であれば教えてください。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

こういう事業なので、市の予算でということで、主体になってやってほしいという話をしていますが、ここら辺を都市計画課さんがどこまでお考えになれるのかと思うのですが、そういう意味で調整中です。

○委員長

これからみんなで考えていこうという感じですね。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

はい。

○委員長

ありがとうございます。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

補足しますと、市にもうちょっと積極的に動いてもらうために実証実験をして示すというところもあるので、本来、市がやるべきところというのをを使うのに必要な費用というところで、今回申請をさせていただいたというところです。

○委員長

なかなか難しいところではあると思います。

ただ、ここに書いてありますが、もちろん市にやるべきというお話もありつつ、そこを何とか住民自体の何か地域運営組織とか、まち協さんとかの事業の一環としてできるかもしれないから、そういう幅広に選択肢は持っていただけるといいのかなというふうには思います。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

最終的には、グリスロは、各地域で運用していくというのが望ましいと思っています。七次台の地区とか、もうちょっと広い地域かもしれないですが、その中で、どこが運用主体になって、それぞれの地区で走れば、つながり合うとか、そのような形にするのが一番良いのかなとは思っています。

○委員長

ありがとうございます。ほか、どうですか。

どうぞ。

○●●委員

私の個人的な興味になりますが、何人乗りぐらいの規模で考えていますか。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

車両は、6人乗りと8人乗りの2つあります。6人乗りのものには実際乗ってみました。

○●●委員

では、その規模のものを考えていらっしゃるということですね。

○「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会

はい。

○委員長

ありがとうございました。

お時間となりましたので、「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会さんは以上とさせていただきます。お忙しいところ、どうも御参加ありがとうございました。

○しろいdeあそ部

本日、配布資料は配っていないので、画面のほうを見ていただければと思います。

説明していきます。まず初めに、私たち、しろいdeあそ部、2年前に補助金頂いておりまして、去年は提出しなかったのですが、今年、満を持してというか、1年おいて、補助金申請させていただきます。

白井市を中心に、ボードゲームとか謎解きゲームとかをやって、地域交流を図っている団体です。よろしくお願いします。

令和2年から活動していて、いろいろ活動しているのですが、例えば、各センターさんのイベントとかにお呼ばれしてボードゲーム会をやったり、あとは学童ですね。一番行っているところでいうと、すぐその第一小学校の学童に月に1回行っています。

あとは、市民文化祭というほうにも参加させていただいて、ボードゲームの大会をやったり、去年はベイブレードという、普通におもちゃ会社が出しているホビーなのですけれども、その大会を開催しました。

あとは、よくやっている活動としては、アンズハウスという西白井にあるカフェが閉店しそうみたいなところで、レンタルスペースになっていたのですけれども、定期的にボードゲームをやっています。毎月第2、第4金曜日の夜やっていますので、実は本日もこれからというか、6時から10時まで、ボードゲームをやりに行くという形になります。

このようにボードゲームをいろいろやってきたり、いろいろなほかの遊びもやってきたところですが、ボードゲームとか、そういった遊びをきっかけに子供たちの居場所づくりをしていきたいというのが、一応、大きなメインのミッションになっていまして。

その中で、今回補助金をもらうに当たって、障害とか、そういうところにももうちょっと目を向けてやっていければなというのを考えております。

あと、財源確保のところですね。今回の補助金、結構大きい額を申請しているのです

けれども、補助金頼りではなくて、しっかり自分たちでも稼げるようにというのは、考えていることになります。

今回、去年度はやらなかった事業として、おとし申請したときにもやった事業なのですけれども、遊べる自習室というところで、夏休みの期間とかに、自習を見ながら時間ごと、1時間遊んだら1時間勉強させるみたいなことをやりました。結構、それリピートというか、去年、結構やってほしいという声もありまして、今回、復活させたいなと思っています。

それから、これも一昨年にやって、去年はやらなかったのですが、マードーミステリーというゲームが最近はやっていて、ストーリー仕立てのゲームをやっていくというところなんです。今年度も、実はテストプレイみたいな形で、市内のマンションの会議室みたいなところを借りて、中学生とかと一緒にやったりとかをしました。そこは無料でやりましたが、これについては、できれば大人から参加費としてお金を取っていただければと思っています。

あと、ベイブレードの大会、去年やったのですけれども、結構好評だったので、今年度は市民文化祭だけではなくて、まちボラひろばとか、ほかのイベントともくっつけて、集客、それなりに子供呼べるので、そういったイベントにも子供とかが入れるようなことができればなと思っています。ここは、一応無料で考えています。

それから、今、アンズハウスで、しろいdeあそばナイトというのを月2回やっているのですけれども、定期的に軽食みたいなを出したらいいのではないかと考えています。それは、我々がただ出すだけではなくて、子供たちも来てくれるので、子供たちに、ピザとかでいうとトッピングとかをさせて、大人に出すみたいなことを想定しています。

あとは、ユニバーサルスポーツということで、しろいdeあそばナイトということで、障害のある方とかも結構来るのですけれども、できるゲームに限られるみたいなところもあって。何かみんなでできるものを使ったほうがいいのではないかと考えています。今回、新たにゴルフとかを導入というか、できればなと思っています。

このように、今までの活動を広げつつ、財源確保も考えて、次世代の育成、それから、みんなで遊ぶ援助をしていきたいと思っています。

最後、駆け足になったのですけれども、このような形で活動を広げていこうと思っていますので、こちらの事業に御支援よろしくをお願いします。

以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございます。

○委員長

ありがとうございました。

それでは、委員からの質問に続きたいと思います。いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

これから軽食を調理提供していくということで、子供にも手伝ってもらおうということですが、子ども食堂とか、名称はともあれ、調理をする団体も多くなっていくと思いますが、やはり何かあったときのことを考えて、審査に際してそれなりの指針を持たないといけないと思っております。

例えば、ある団体では、食品衛生責任者養成講習会を受講すると明記されています。そういった面で、子供に手伝ってもらうのは全然良いと思うのですが、ボードゲームをやって、その中で、何か月かに1回ぐらい提供しようかというのは分かるのですが、その点を教えていただけますか。

○しろいdeあそ部

ありがとうございます。

一応、こちらで考えているのが、まず提供するものは基本、火を通すものとか、あとは調理といっても、乗っけるとか、乗付けて焼くぐらいのものを想定しています。あと、スタッフの中に、今おっしゃられた食品衛生責任者の資格を持っている者がいます。基本、そのスタッフがいるときに開催するというのを想定しています。なので、毎回ではないのですが、そのスタッフが来ることのできるタイミングでやるというのを今は想定している形です。

もちろん手洗い、消毒などは、子供さんも含めて徹底してやるというのは、その方がちゃんと見るというところでやろうと思っていますので、私としては、安心してやれるかなと思っております。

○●●委員

どうもありがとうございます。そうすると、調理というよりは、軽食、スナックとか、そういう表記にしたほうが良いかなと思いました。

以上です。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

どうぞ。

○●●委員

去年は、補助金を申請しないで活動されたのですよね。

○しろいdeあそ部

そうですね。

○●●委員

今回は、予算書では25万円が市からの補助金ということで入っていて、昨年1年間、補助金を使わないでやってみたときと、また25万円が入ったときは、どの辺に予算の割合が振り分けられているのかなという、そこを伺いたいと思います。

○しろいdeあそ部

ありがとうございます。

まず25万円についてなのですけれども、昨年度というか、一昨年と今回言っていることなのですけれども、各センターなどにお呼ばれされた際は、無料では出ませんと最近、言っています。やはり無償で出てほしいとなってしまうと思って、去年というか、おとしぐらいから、イベントで出る機会は、5千円とか1万円とか出すというところもあったのですけれども、もらっております。

今年度、申請予算の中では、呼ばれるかまだ分かっていないので、それで0円で見えますが、恐らく25万円から、そういった予算、今年度、多分呼ばれると思っているので、減っていくと思っています。なので、25万も多分、実際はかからないと思っています。去年やってみて、今まで結構持ち出しで、お菓子とかは出していたのですが、ちゃんとやったほうがいいのではないかと内部で話題に上がったところと、あと、ボードゲームとかが、結構紛失するといったことがありまして。

あと、先ほどのベイブレード大会ですが、実際、子供たちを疑うことはしないですが、ベイブレードがなくなったことが普通にあるので、今年度、予算の中では、ベイブレードはちょっと買い足すとかを見ております。

加えて、これももし採択できれば、こちらの補助金に入れると思っていることですが、タカラトミーさんが、今年度4月に入ってから、そういった地域イベントでベイブレードやったときに提供してくれるというサービスというか、事業を始めまして、それも今、申請中です。

今ベイブレードでいくらか予算を盛っていますが、それがもらえると、この補助金では要らなくなるかなと思っています。

なので、いろいろ活動する上で、結局、去年も持ち出ししていた分をちょっと補いたいというのがあって、お話ししています。

○●●委員

ありがとうございます。

ぜひ、いろいろ工夫しているようなので、継続できるように頑張ってくださいと思います。

○委員長

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。

○●●委員

私の認識で分からないところがあって、まず、ボードゲームとは何ぞやというところがあります。ボードゲーム自体の資料がないと共通言語で語り合えないまま審査する事になる。ボードゲームをやることによって、居場所づくりになって、その中で子供たちに、場合によっては勉強したりとかというような感じの事業に取り組むとお聞きしまし

たが、まず、最初の入り口が、それだけの子供が集まってくる、そのボードゲームというのは何なのかと思いました。

それで、居場所づくりというのが、そのボードゲームに誘因力があって、子供がどうやってそこに入って行って、今やっていっているのかというのが、そこら辺がちょっと分からないというところがあって、そこをちょっと説明していただきたいと思いました。

あと、先ほど調理について言いましたが、子ども食堂というのがあるので、そことこちらの団体が提供する軽食が一緒になってしまって、場合によって、ここで感染症かなんらかの食中毒となってしまうと他の団体や子ども食堂自体の問題となって社会問題化となる。そこら辺はちゃんとやられたほうがいいのかなと思ったところです。

軽食なら軽食で、調理という位置づけにするのではなく、お皿に盛るだけとか、そういうところが分かりやすくなると良いかと思いました。そのボードゲームと居場所のことを教えてもらえますか。

○しろいdeあそ部

ありがとうございます。

まず、ボードゲームについてですが、ボードゲームはいろいろなものがあるので、一言に言えるものではないですが、この活動写真が今、アンズハウスで持っていっているゲームのほんの一部が机に置いてあるという様子にはなります。

本当にカードだけを使うようなものもあれば、使っている机いっぱい、地図のようなものが広がったり、みんなの駒があったりというようなゲームもあります。

ボードゲームの一番いいところは、自分たちでルールを理解して、プログラムを動かすではないですが、誰かのターンが終わったら、次、誰々のターンだよねという、そのルールを守っていくというところに一番、学びがあると僕らは思っています。

ボードゲームが、なぜ居場所づくりとか、そういう交流になっているかといいますと、アンズハウスでやるときは、親御さんと子供さん、一緒に来ることはあるのですが、基本的には、卓を分けてやらせています。なので、いつもお父さん、お母さんに見てもらうのではなくて、今日初めて会ったおじさんにルールを覚えてもらおうとか、多分、近い小学校なのだけれども、いつも会わない、違う小学校のお友達と一緒に遊ぶみたいところで、ここだけの出会いというのが実際に生まれていますし、結構最近だと、梨農家さんが来てくれて、地域のお話とかをしながら結構やれているというところで。ボードゲームを真ん中に置いて、そういった交流が生まれているのは確かだと思っています。

お子さんを置いて、どこかに行ってしまう親御さんとかもいるので、そういった意味でも子供の居場所という、いろいろなパターンがあると思うのですけれども、そういった面もあるかなと思っています。

○委員長

それでは、お時間となりましたので、しろいdeあそ部さんの発表は以上とさせてい

たきます。お忙しいところ、御参加いただきまして、どうもありがとうございました。

○しろいdeあそ部

ありがとうございました。

○事務局

それでは、以上をもちまして令和7年度白井市市民活動支援補助金の審査に係るプレゼンテーションを終了いたします。

(3) 補助金審査

(採点・集計)

○事務局

さきほど3枚用紙を配らせていただきました。こちらは各団体の得点結果を示しております。

ひだまり食堂と「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会については、促進型の申請なので、15点以上の得点となっていれば採択となります。また、しろいdeあそ部については、発展型のため、24点以上の得点がついていれば採択となります。

まず、ひだまり食堂の結果ですが、合計平均点数が24.3点と15点を超えていますので採択となります。

次に、「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会については、合計平均点数が18.0点で、こちらも15点を超えておりますので採択となります。

最後に、しろいdeあそ部については、合計平均点数が34.2点と24点を上回っておりますので、こちらも採択という結果になります。事務局からの説明は以上になります

○委員長

ありがとうございました。

基準点的には全団体採択ということです。

続いて、各団体への特記事項を、後でまた皆さんに出していただいたものは打ち出させていただきますが、それを前提に、その中でも強調したいこととか、あるいはここに書き漏らしたけど言っておきたいこととかがあれば、残りの時間で挙げていただきたいと思います。

最終的には委員長に一任いただいて、皆さんからいただいたご意見を踏まえて修正して成案としますので、その前提でまずひだまり食堂さんから言っていきたいと思いますが、コメントある方はいらっしゃいますか

はい、どうぞ。

○●●委員

社会福祉協議会では、子ども食堂などと連携して発展するように応援しているわけですが、今回みたいに、若い人が中心となって子ども食堂をやっていただくというのは非常に良いことなので、こういった集いの場がもっと増えればいいなと注目しております。以上です。

○委員長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

よろしいですかね。それでは審査用紙に書いていただいたコメントも含め、審査コメントとさせていただきます。

次に、「ほんとうに住みやすい白井」を本当にする会はいかがでしょう。

○●●委員

こちらについては前回の書類審査のときにも少し質問したところですが、啓発活動の部分の支援だということでしたが、そうはいっても、やはり今日もお話聞いて、実証運行のところを充実した形でしっかりやって、そこと連動することで初めて効果を発揮する啓発活動かな、と考えました。ぜひ実証運行にチャレンジしていただいて、そこと連携する形で進めていただくというところがポイントかと思われますので、その辺、コメントに入ってしかるべきかというふうに考えているところです。以上です。

○委員長

ありがとうございます。啓発活動だけでなく、実証実験と合わせて効果が最大化するというのは皆さんの認識がおそろいだと思いますので、その辺はぜひ乗り越えていきたいと思います。

先ほどありましたが、実証実験についてはかなり抽象的な部分があって、どんな所でやるのかとか、道路許可申請とかそういう具体的なところを詰めていくとなると結構時間がかかるものだと思います。委員会が11月ぐらいにあるというのはおっしゃっていただいたとおりで、うまくタイミングが合えば視察をできたらとも思いますが、それを目的にして委員会をずらすというのはまた違うとは思いますが、一応ご承知いただければ、というふうに思います。

そもそも、この補助事業ではないので、啓発講座の視察であれば問題ないですが、実証実験には市から補助を出していないので、委員会の視察としては向いていないかと思います。

○事務局

中間ヒアリングを今後実施いたしますので、その時にもし、やるというのが分かりましたら、もちろん委員の皆様にも周知はできるかと思います。

○委員長

そうですね。ほかはいかがですか。

それでは、最後にしろい d e あそ部さんです。何かありますか。

○●●委員

リスクマネジメントというのはやはり重要になってくると思います。

我々が審査コメントとしてそういった内容を入れておくと、団体さんの方も配慮をしていくということに指導ができるから良いかな、というふうに思います。しろい d e あそ部さんは、初回の審査時に、一部分じゃなくて市内全域でやれるようにできないかという注文をつけたところ、本当に無直にやっていただいたな、というのを私も当初から見ているので、実感しているところです。

さらに今年はエリアを広げるだけではなくて参加者層も広げていくんだという試みが感じ取れることも素晴らしいと思っています。

ただ、事業を拡大していく一方で、どうしてもリスクも高まるということがありますので、リスクマネジメントも大事ということで、ぜひその辺の配慮をしたりとか、先ほどもヒヤリハットの話を見せてもらいましたが、そういった知見などを蓄積していくことを意識的にやっていけると良いのではないかと、というコメントがあると良いな、というふうに考えているところです。以上です

○委員長

はい、ありがとうございます。

そうですね、リスクはコントロールしなきゃいけない。何かやる以上はリスクは発生しますので、あくまでどう取り組んでいくかというところで、まず保険をかけるとかよくありますが、そういう初歩的なところから触れていただけると良いのかな、という気がしますね。

そうしましたら、採択団体が決まり、特記事項のコメントも大体決まりましたので、今回のこの審査については以上で終わってよろしいでしょうか。

皆様のご協力のうえて、だいぶ早く進行しておりましてありがとうございます。以上で議事を終了させていただきます。